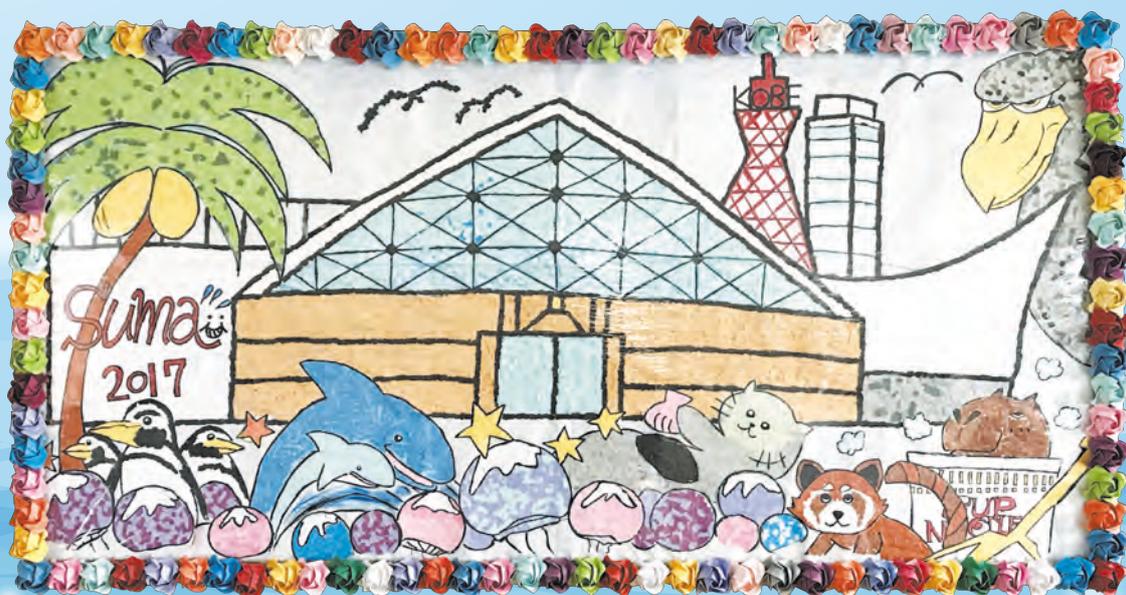


支部活動等助成事業報告書

令和元年度



一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会

はじめに

平素は、「生活サポート補償制度」にご加入いただいています会員(知的障がい児者・自閉症児者の方々)並びにご家族のご支援、ご協力に深く感謝いたします。また、支部(施設等)におかれましては、会員の方々の生活を日夜ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、「大阪生活サポート協会」)は、会員が直面するかもしれない様々な危険に対しての総合的な補償制度(AIG 普通傷害保険)と各種事業によって、会員一人ひとりが権利の主体者として「その人らしく輝いて生きる」ための支援を行っています。

事業の一つである「支部活動等助成事業」は、「大阪生活サポート協会」が設立後最初に取り組んだ事業であります。回を重ねるごとに、各支部(施設等)からの応募数の増加とともに事業内容の拡がりもあり、この事業継続の意義を実感しております。

最近の傾向は応募支部の固定化であります。支部におかれましては、この事業を積極的にご活用いただくことを心から願っています。

事業計画を立てる際に対象者別に事業内容を考えてみることはどうでしょうか。

①会員への支援～いろいろな経験を重ねてエンパワメントの機会とする。

②会員を取り巻く環境へのアプローチ

人的環境～家族、施設職員、地域住民等への支援

社会環境～施設等の在る、あるいは会員の暮らす地域での防災ネットワークづくり、法人間の連携・協働 など

③地域共生社会実現への一歩となる活動

障がいのある人がサービスの受け手にとどまらず、地域の中で双方向の関係性の生まれる活動を「小さくてもよい」「ちょっと頑張ればできる」ことから考えてみる。

具体的に事業の例を提示しますので、ご参考にしてくださいと幸いです。

■会員への支援 ～表現活動支援～

ホームページ上に「作品展示コーナー」を設けており、会員からの応募作品を掲載しています。昨年度(令和元年12月5日)大阪市内のホテルにて応募作品139点の発表会を開催。入賞作品16点を表彰しました。入賞作品は「生活サポート総合補償制度」のパンフレットをはじめ支部活動等助成事業報告書の表紙、機関紙等に掲載し、多くの方々に披露する機会を設けています。

■家族支援 ～権利擁護に係る事業(研修、何でも相談会など)～

多くの会員の皆様はご家庭から地域の日中活動の場である施設等へ毎日通所しています。1年・365日の間には会員とご家族の間でトラブルがあります。特別なことではないのです。どこのご家庭でも起こりえます。時には深刻な状況になってしまうことがあります。障害者虐待防止法にある養護者による虐待のおそれがある事態にまで発展する事例もあります。

■支援者支援 ～知識を深めたり、スキルアップ研修など～

事故等に対する危機管理については、より質の高いサービスの提供があらゆる事故を回避する一歩であると認識しています。最近、大阪府下の障害者福祉施設で昼食時に提供された唐揚げをのどに詰まらせて死亡させたと報道されていきました。いつもの支援者が不在で他の支援者が食事介助をしていたとのこと。引継ぎができていなかったらしいです。事故はどここの施設等においても発生します。当該施設だけの問題ではありません。

各施設等においては、支援者の確保・定着が困難であり、コアとなる支援者の育成にまで至らない状況にあると思われます。しかし、いかなる理由があろうとも、我々関係者は一人ひとりの安心・安全なくらしの確保に努めなければなりません。

会員の皆様をはじめ、ご家族、支部(施設等)の皆様方と共に歩みをすすめていきたいと願っています。何卒ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和2年7月吉日

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (社福) まりも会	わかたけ	1
2 (社福) たけるの里	たけるの里	2
3 (社福) さん・すまいる	さん・すまいる	3
4 (社福) ひびき福祉会	アクティビティセンターひびき	4
5 (社福) 若草会	若草園	6
6 (社福) 大阪府肢体不自由者協会	守口障害者支援センターひだまり	7
7 (社福) 障友会	うららのお店	8
8 (社福) 北摂杉の子会	ぶれいす Be	9
9 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ	10
10 (社福) いずみ野福祉会	高石障害者作業所	11
11 (社福) 信貴福祉会	ワクワクセンターひばり	13
12 (社福) 北摂杉の子会	北摂杉の子会 (LaLa-chocolat-TAKATSUKI)	14
13 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	かつらぎ(こんごう・にじょう)	15
14 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センター中	16
15 (社福) コスモス	ふれあいの里かたくら	18
16 (NPO) 福幸	福幸	19
17 (社福) 讃良福祉会	ワークセンター小路	20
18 (社福) 富翔会	わくわく富田林 (ワークメイト聖徳園)	21
19 (社福) 武田塾	高井田苑	22

20 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	地域生活総合支援センターきらら (こども発達支援センター mum) …	24
21 (社福) 障友会	堺みなみ ……………	26
22 (社福) 療育・自立センター	寝屋川市立 すばる・北斗福祉作業所 ……………	27
23 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	大阪府立こんごう福祉センター しいのき寮 ……………	29
24 (社福) 二色福祉会	二色福祉会 ……………	30
25 (社福) 路交館	ういず守口 ……………	31
26 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	こども発達支援センター Sun ……………	33
27 (NPO) 枚方市障害者事業協会	わお ……………	34
28 (NPO) ノーマライゼーション高槻	コルメナ ……………	35
29 (社福) 育成福祉会	総合支援センターさくら ……………	36

II 資料

令和元年度支部活動等助成事業実施要項

令和元年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会の理念と事業

- 表紙作品 制作クラブ合作 (ワークセンターまつのみ)

令和元年度 支部活動等助成支部事業報告

(各支部報告は原文のまま記載)

I 支部活動報告

1 支部名： わかたけ

- ① 実施日： 令和元年9月21日(土)
- ② 実施場所： ひらかた仙亭(枚方市大垣内町3丁目1-20)
- ③ 対象者： わかたけ利用者、家族、職員・法人職員 計88名
- ④ 実施概要・目的

「わかたけ創立20周年を記念する会」の開催

わかたけ創立20周年を利用者、家族、職員みなでお祝いし、明日から次の周年に向けて頑張れるような取り組みにする。また、日頃は利用者、家族ともに高齢化し外出の機会が減る中、お祝いとして自分たちではなかなか行けない場所へ外出する機会を作る事を目的に実施。挨拶、乾杯、お祝い企画(クイズ大会、家族会の出し物、思い出を振り返るスライドショー、わかたけの歌大合唱)、記念撮影

⑤ 成果

当日は心配していた雨も降らず参加予定者1名もかけることなく参加ができました。関連施設であるグループホームの職員も参加し、いつもはあまり顔を合わせない家族や職員の交流の場になりました。利用者にとっては慣れない場所でしたがそれが新鮮でよかったのか、おいしい料理に舌鼓をうちながら企画に参加できました。また会場には年表や懐かしい写真も飾り、あの時はこうだった、こんなこともあった、と、なかま同士で会話が弾みました。

会場は何度も綿密に打ち合わせを行い、バリアフリーから料理の内容、出すタイミングまで大変ご配慮いただき、とても気持ちよく式を執り行うことができました。

最後には利用者、家族で作った歌をみんなで合唱し、大きな拍手でお開きになりました。後日の感想では「行きにくいかと思ったが参加できてよかった」「わかたけらしい式だった」「あと10年後はこんな風に集まれないかもしれないから、とても貴重な経験をさせてもらった」等、たくさんの感想が寄せられました。

外で式を執り行うにあたり難題は多かったけれど感想を聞くと外でやってよかったとつくづく感じました。

⑥ 今後の展望

この20年で利用者や家族のニーズはどんどん変化しているように感じます。人材不足の中、これからどのようにニーズに応じていけるか正直不安なところもありますが、今回のような機会をとおり、再度元気をもらってみんなで頑張っていきたいと思えます。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	飲料代	584,110
自己資金	520,610	スクリーン借用代	26,500
		プロジェクター借用代	10,000
計	620,610	計	620,610

2 支部名： たけるの里

① 実施日： 令和元年9月5日(木)～6日(金)

② 実施場所： 1日目 須磨海浜水族園 2日目 淡路島牧場 旅館 夢海遊

③ 対象者： 利用者22名、職員11名 計33名

④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行」の実施

一年に一度、利用者と職員が寝食を共にし、共有する思い出を作りたい。

また、身の回りの事を出来るだけ自分で行ってもらい自立へのきっかけになるよう支援する。

⑤ 成果

予定ではイルカショーは見れない事になっていたが、昼食終了時間が予定より早くなったので見る事ができた。天気も良くかなり暑かった為、みなさんかなり汗をかいていたが、イルカショーを楽しんでいた。魚見学組と乗り物組とに分かれ、各々楽しめた。旅館到着時間を早めにし、次の日の出発までの時間もゆったり取ったので入浴・宴会・買物等をゆっくり楽しんでいた。淡路島牧場では、各自一生懸命に容器を振り自家製バターを作り、クラッカーにつけて試食をした。その後にミルクあげ、乳しぼり体験を行った。動物が苦手な人も中にはいたが、怖がりながらもやってみようとする人、指先がうまく動かさず中々ミルクをしぼる事ができない人もいたが、何でもやってみようという思いもあり、上手にできたと喜んでいる人も多かった。

⑥ 今後の課題

より旅館でくつろげるように部屋を変更する。(すぐ寝れる人・寝れない人を分ける。) 近畿圏内で楽しく過ごせる場所を探す。(バスに乗っている時間を短くできるスケジュールにする。)



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	大型バス料金	183,600
自己資金	665,500	宿泊料金	432,630
利用者自己負担金	90,970	施設利用料	30,300
		通行・駐車料金	28,810
		保険・乗務員宿泊費等諸経費	61,650
		昼食代	106,920
		下見経費	12,560
計	856,470	計	856,470

3 支部名：さん・すまいる

① 実施日：令和元年9月20日(金)～21日(土)

② 実施場所：福井県 恐竜博物館・あわら温泉

③ 対象者：利用者14名、職員11名 計25名

④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行」の実施

- 1) 保護者から離れて宿泊する経験をする
- 2) 集団で行動し、みんなで一緒に楽しく過ごす
- 3) お土産など買い物を楽しむ

⑤ 成果

障がいの重い人たちにとって家庭以外の場で過ごす経験は少ない。宿泊学習を積み重ねることで、環境が変わっても「食べることができる」「お風呂に入る」「寝ることができる」など日常と変わらぬ生活が送れるよう自律する気持ちを育むことができた。観

ひびき利用者の作った焼き菓子を販売、縫製品等の自主製品販売、バザー・模擬店
(飲み物・遊びコーナー)

⑤ 成 果

事前に地域への案内ポスター掲示、チラシを配布していたこともあり、開催当日は、地域の方を始め、ひびき福祉会の利用者・関係者等延べ 300 名を越える方が来られた。入口に展示したひびき福祉会の紹介コーナーでは、作業の様子をパネルで説明し、縫製品や家電リサイクルでの基盤等を展示していたので分かりやすく、「家電リサイクルに協力するにはどのようにすれば良いか」と質問される方もおられた。事業所利用者さん達による「夢」をテーマにした絵画展では、行きたいところや食べたい物等 100 点を越える作品が展示され、来られた方はゆっくりと作品を鑑賞されていた。

障がい者団体「WAKUWAKU 座」によるステージを 2 回行った。午前の 1 回目は会場が満席になるくらい大勢のお客様に来ていただき、障がいのある方達が日頃練習された南京玉すだれや皿回しを披露していただいた。皿回しでは、お客様も参加して楽しんでいた。

今回の「ひびきまつり」を開催することで、地域の皆様にも来ていただき、ひびき福祉会の事業について、そこで働く利用者さんの様子、障がいのある方達のステージを通じて障害者福祉に対する理解が深まったのではないかと思います。

⑥ 今後の展望

今回が初めての「ひびきまつり」の開催で天候にも恵まれ多くの方に来ていただくことができた。地域の皆様への障害者福祉への啓蒙活動として今後も続けていきたいと考えている。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	出演料	50,000
自己資金	43,735	広報、宣伝費	15,209
		催し物材料費	17,488

		運営費、備品等	11,038
計	93,735	計	93,735

5 支部名： 若草園

- ① 実施日： 令和元年9月29日（日）
- ② 実施場所： 若草園駐車場、若草園フロア
- ③ 対象者： ご利用者、ご家族、職員、ボランティア、地域の方々 約400名
- ④ 実施概要・目的

「第33回 若草納涼大会」の開催

地域の祭りに参加困難な利用者の方々楽しんでいただくとともに、地域との繋がりを深めることを目的とする。

⑤ 成果

天気に恵まれ、2年ぶりに開催することができた。ご利用者、ご家族、地域の方々、大変楽しんでいただき、喜んで頂くことができた。ボランティアの方々の協力もあり、無事納涼大会を成功することができた。

⑥ 今後の展望

この納涼大会を通じ、改めて地域及びボランティアとの繋がりの必要性、重要性を再確認したところである。

社会福祉施設が地域の社会資源であることを念頭に、地域交流を通じ関係性を深める中で、ご利用者の社会参画をさらに勧めていきたい。



⑦ 収支報告

＜収入＞		＜支出＞	
項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	食材	127,677
自己資金	63,987	ガスボンベ	15,160
		ゴミ処理代	5,400
		カキ氷の氷代	15,750
計	163,987	計	163,987

6 支部名： 守口障害者支援センターひだまり

- ① 実施日： 令和元年 6月 13日 (木)
- ② 実施場所： 京都クラフトセンター、ホテルグランディア京都
- ③ 対象者： 利用者 24名、利用者家族 16名、職員 21名 計 61名
- ④ 実施概要・目的

「利用者の社会参加を目的とした日帰り研修旅行」の実施

利用者の社会参加を目的に毎年実施しており、多くの利用者・利用者の家族が楽しみにされています。今年度は大型バス 2 台を借りて京都に行き、京都クラフトセンターで素焼き人形の絵付けの体験を楽しんだ後、ホテルグランディア京都のレストランでランチビュッフェを食べました。

⑤ 成 果

今回の旅行は梅雨の時期だったため、雨でも楽しめるということで、京都クラフトセンターで素焼き人形の絵付け体験をしていただきました。

皆様真剣に取り組まれ、色とりどりのオリジナルの人形ができあがり、京都らしい体験を楽しまれていました。昼食はペースト食の方も皆と一緒に食事を希望されていたということもあり、ペースト食対応可能なホテルグランディア京都のレストランのビュッフェを食べました。何から食べたらよいのか迷うくらい食事が並べられており、とても美味しく好評で、ペースト食の方も選んだお食事を食べられたので、大変喜ばれていました。皆様からは、楽しい体験ができ、食事も美味しくて良かった、また行きたいという意見を多くいただき、職員も利用者のいつもと違う様子や楽しそうな笑顔を見れたことはとても良かったので、また来年も実施したいと思いました。

⑥ 今後の展望

利用者が社会体験できる行事であり、利用者家族と施設側が交流できる場でもあるので、利用者・利用者家族の希望や意見も取り入れながら、今後も続けていきたいと思っています。



⑦ 収支報告

< 収入 >

< 支出 >

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	大型バス代 (リフト付き含む)	232,200

自己資金	273,116	昼食代（乗務員含む）	174,040
利用者・保護者参加費	160,000	絵付け体験料	46,800
		通行駐車料	27,480
		旅行取扱料	32,940
		ホテル客室使用料	19,656
計	533,116	計	533,116

7 支部名： うららのお店

- ① 実施日： 令和元年10月26日（土）
- ② 実施場所： 社会福祉法人 障友会 うららのお店 喫茶スペース
- ③ 対象者： 利用者・利用者ご家族・職員・来賓 計32名
- ④ 実施概要・目的

「創立20周年記念事業」の実施

開所から20年の歩みを皆で振り返り、感謝の気持ちを伝えるとともに、20周年を迎えることができた喜びと今後の方向性を共有する。

まず初めに来賓よりご祝辞をいただき、利用者の方々にも20年の思い出を発表していただきました。次に皆で『うららのお店20年の歩み』のスライド鑑賞、懐かしい写真で楽しい記憶がよみがえり、喜びの声が会場に溢れました。

その後は美味しいお弁当を囲んでの会食を行い、最後は利用者さんたちの合唱『明日があるさ』と『ありがとう』で感謝の気持ちと未来への想いを伝え、大きな温かい拍手を頂きました。

⑤ 成果

スライドの観賞や会食を楽しみながらいろいろな思い出を語り合うことで20年の重みと喜びを実感し、皆で共有することができました。また充実した内容の祝賀会を行うことで、一区切りの節目として特別な一日となり、利用者の皆さんの嬉しそうな笑顔が印象的でした。後日、記念の名入りボールペンをお客様にもお渡しすることで会話が弾み、20周年を一緒に喜んでいただくことができました。

⑥ 今後の展望

開所当初からの理念である『地域に根差した施設』をこれからも発展させ、利用者の方々が地域で生きがいを持って働くことができるよう支援を行うとともに、地域に必要とされる施設を目指していきたいと思っております。

30周年もこうして皆で幸せに迎えることができるよう、懐かしく思い出せる日々をこれからも紡いでいけるよう、事業所全体で取り組んでまいります。

この度は助成を頂きありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	会食代 (弁当代等)	36,812
自己資金	35,375	記念品名入りボールペン	21,280
		記念品 フォトブック	27,283
計	85,375	計	85,375

8 支部名： ぶれいす Be

① 実施日： 令和元年 10 年 30 日 (雨天の為、29 日より順延して開催しました。)

② 実施場所： 杉の子農園

③ 対象者： 利用者、家族、職員、地域住民等 約 200 名

④ 実施概要・目的

「第 8 回杉の子農園収穫祭」の開催

法人が所有する農園とその周辺を使い、収穫祭を開催。地域の方々との交流を図り障がい理解や法人の活動等の啓発をさらに深める。

⑤ 成 果

2 年ぶりに従来の規模 (参加者 200 名規模) に戻して収穫祭を開催することができました。10 月 29 日が雨天でしたので、翌日に順延して開催したことで予定されていたご家族の参加や手伝いが若干減ってしまいましたが、多くのご利用者に加え、地域の方々 (主に農園の関係者) も来場してくださいました。さまざまな事業所のご利用者・ご家族・職員・地域の方々が集い、貴重な交流の場になったと思います。当日は、好天に恵まれ、収穫や野外での食事 (やきそば、焼き芋、ふかし芋、豚汁) を楽しめました。

⑥ 今後の展望

収穫や野外での食事を楽しむだけでなく、複数の事業所のご利用者・ご家族・職員・地域の方々が集い、交流をすることができる貴重な機会でもありますので、今年度の結果を省みて、次年度以降もより良い収穫祭を開催できるよう検討して参ります。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	レンタル物品代	74,358
自己資金	47,909	ガスボンベ使用料金	10,000
		食材費	27,751
		調理器材・調味料等	5,466
		記念品	10,000
		収穫用農機具	9,028
		使い捨て食器等	11,306
計	147,909	計	147,909

9 支部名： 夢工房くるみ

① 実施日： 令和元年10月19日（土）

② 実施場所： 夢工房くるみ

③ 対象者： 広く地域の方、及び関係機関、それらを利用されている方、利用者と家族の方 約300名

④ 実施概要・目的

「くるみ秋まつり」の開催

日頃より当事業所の運営にご理解をいただき、サポートしてくださっている地域の皆様と催しや屋台などを通じてふれあう場として、また事業所内には活動中の写真などを展示して地域の皆様に普段の様子を知っていただく情報発信の機会として「くるみ秋まつり」を実施する。また、他事業所にも協力してもらいオリジナル T シャツ作りのワークショップや紙すき体験、綿菓子、焼きそば、たこ焼き、手作りコロッケなどの屋台に加えて子供たちに人気の射的やガラガラ抽選会など大人から子供まで楽しめるイベントになる。

⑤ 成 果

毎年来場してくれる地域の子供たちも多く、射的などのゲームなど大いに楽しんでもらえたようだった。また地域の障がい者施設の協力もあり支援者同士の交流や、ガイ

・グループの枠を取り払い応援しあいながら交流する。

⑤ 成 果

職員がすべて考えた旅行に参加するというだけでなく、各仕事のグループから『旅行係り』を中心に利用者から希望を聞き、話し合いながら旅行の準備を行う。また日頃はグループ別に仕事をしているため、他のグループの人とはなかなか交流の機会がないため、グループを超えて交流することも目的の1つ。

当日はバスの中のレクリエーションの司会や宴会の進行を『旅行係り』が務め旅行を盛り上げていた。またホテルの部屋やグループ行動の中でグループを超え交流し、お互いに応援する姿が見られた。参加者全員が笑顔で帰路につくことができ、旅行の目的は達成できたと思われた。

⑥ 今後の展望

一泊旅行は、利用者・家族に係る費用負担が大きいですが、今は家族は「年に一回くらいは大好きななかまたちとの旅行に行かせてやりたい」という思いもあり、参加できている人もいます。旅行を通して利用者の日中には見ることのできない姿を見ることができたり、利用者同士の助け合う姿が見られたり、家族の大変さを共有したりと意義は大きい。なるべく大きな自己負担がかからないように、そして今後もさらに充実するよう、検討を重ねていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	旅行者支払い	1,733,446
自己資金	631,608	衛生備品	6,450
利用者負担	1,015,522	出し物備品	2,268
寄付	10,000	キャンプファイヤー備品	5,462
		しおり作成	940
		不参加者お土産	5,050
		諸経費	3,514
計	1,757,130	計	1,757,130

1 1 支部名： ワクワクセンターひばり

- ① 実施日： 令和元年9月12日（水）～13日（木）
- ② 実施場所： 兵庫県神戸市
- ③ 対象者： ワクワクセンターひばり利用者 32名 職員 16名 計 48名
- ④ 実施概要・目的

「施設利用者の一泊旅行」の実施

ワクワクセンターひばりの3つの生活介護班（A・B・C班）を2つのグループ（A班とB班①）（C班とB②）に分け、同じ行先で一泊二日の旅行を実施しました。

一日目は神戸市立六甲山牧場での散策とアイスクリーム作り体験。その後、淡路島へ移動しホテル・ザ・サンプラザにて宿泊。二日目は淡路島の岩屋港から明石港へのミニクルージング体験の後、神戸市立須磨海浜水族館での観光という行程でした。

日常と異なる環境で過ごし、楽しい活動や体験を通して、利用者同士の関係を深めること。見通しや期待感を持って、普段できない活動に取り組み、利用者一人ひとりの生活の幅を広げることを目的としました。

⑤ 成 果

今年度はワクワクセンター全体で同じ体験をし、楽しい時間や思い出を共有できることを重視してグループ編成を行いました。A/B班、B/C班ともに、班を超えて利用者同士が関わりながら、体験や観光を楽しむ姿がありました。普段から日常生活を共にしている利用者と一緒にいくことで安心感があり、旅行という非日常の場でも、周囲の人の動きを見ることで見通しを持って活動に参加することができていたと感じます。牧場では普段見ることの少ない動物に驚く利用者もいましたが、アイスクリーム作り体験は皆が楽しめる体験でした。水族館では体験を楽しめる人とそうでない人に分かれており、今後の課題でもありました。

⑥ 今後の展望

次年度もワクワクセンター全体で同じ行程にし、次回は班を分割せずグループ分けしたいと思います。近年は予算の関係上、入場料が低額または無料の観光先を選ばざるを得ない状況にありますが、そのために本当に利用者が楽しめているか疑問に感じる場面も少なからずありました。

年に一度の行事である旅行を充実したものにするため、予算を捻出することは今後の課題です。そして、目的にもあるように普段できない体験をし、楽しいと感じる経験を積み重ねることで、利用者の生活の幅が広がっていくように支援したいと思います。



⑦ 収支報告

<収入> <支出> (円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	バス・高速代	499,720
自己資金	1,082,413	宿泊費	499,680
		食費(2日目昼食代)	104,160
		活動費(入園・観光)	31,360
		諸経費	47,493
計	1,182,413	計	1,182,413

12 支部名：北摂杉の子会 (LaLa-chocolat-TAKATSUKI)

- ① 実施日：令和元年11月9日(土)
- ② 実施場所：フットサルステージノア 茨木店
- ③ 対象者：北摂杉の子会 東成育成園 みずほおおざら ご利用者合計56名
- ④ 実施概要・目的

「障がい児者のサッカーフェスティバル」の開催

- 1) ご利用者の余暇づくり
- 2) 健康づくり
- 3) 仲間づくり
- 4) 承認される機会

⑤ 成果

1) 余暇づくり

サッカーは、PKのようにボールをゴールにける等、重度の方でも参加できることが多いです。趣味が少なく、余暇が限られている方も多いです。

サッカーを競技する、観戦する、応援する、他事業所のご利用者やスタッフ及び学生やコーチ等と交流するなどの楽しみを提供することができました。

2) 健康づくり

体を動かすことの少ないご利用者も多くいらっしゃいます。

生活習慣病や運動不足を予防する観点からフェスティバルをモチベーションとして健康づくりを推進することができました。

3) 仲間づくり

サッカーフェスティバルの出場、観戦、応援等を通して、学生やコーチ、ご家族、地域の人（ボランティア等）、他事業所、他法人とつながりができ、これからもサッカーフェスティバルを通じて、仲間作りを推進していきたいと考えます。

4) 承認される機会；終了後、表彰される機会を設定することで、ご利用者のモチベーションにつながると考えます。

⑥ 今後の展望

今後とも継続的な活動にしていき、ご利用者の余暇の提供や健康づくりにつなげていきたいと思えます。また、年々続けていくことで、ご利用者のサッカースキルも向上してきているため、スペシャルオリンピックの参加等も目標にしていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	コート使用料	56,000
自己資金	61,000	コーチ委託料	55,000
計	111,000	計	111,000

13 支部名： かつらぎ（こんごう・にじょう）〈支部協働〉

- ① 実施日： 令和元年11月23日（土）
- ② 実施場所： アドベンチャーワールド、とれとれ市場
- ③ 対象者： 3事業所利用者、職員 計42名
- ④ 実施概要・目的

「日帰り親睦バスツアー」の実施

「かつらぎ」「こんごう」「にじょう」が運営するグループホームの利用者の多くは、かつては1つの事業所に所属されていて交流が盛んでした。高齢化などの問題により3事業所に分かれてしまった現在、利用者間の交流は希薄になっており、「交流の場を作ってほしい」「みんなと一緒にどこかへ出かけたい」などの声が寄せられました。これに応えるため今回3事業所合同のバスツアーを計画しました。

⑤ 成 果

今回、バスツアーを実施して利用者さんから「久しぶりに皆に会うことができ良かった」「アドベンチャーワールドが楽しかった」「また来年も実施してほしい」などの喜びの声を聞くことができました。一番声が多かったのは、事業所が離れて会えなくなっていた利用者さんに会うことができ良かったという意見でした。バスツアーを実施した目的と利用者さんからいただいた意見が一致することができたので、成果があったと思います。

⑥ 今後の展望

また来年も実施してほしいとの意見が多数出ています。

しかし、今回実施してみて、利用者さんの年齢の幅が広いと歩いて散策できる人もいれば、しんどいのでゆっくり散策したり定期的に休憩したりする方もいました。

そのため、来年はそういった配慮をしながら参加される方全員が楽しんでいただけるプランを考えていく必要があると感じました。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	300,000	交通費	294,470
自己資金	255,906	昼食費	94,050
		入場料	113,226
		旅行保険・企画料	32,160
		添乗員費用	22,000
計	555,906	計	555,906

14 支 部 名： 支援センター中

- ① 実施日： 令和元年10月4日（金）就労継続支援 B 型
令和元年11月8日（金）生活介護
- ② 実施場所： 青蓮寺湖観光村 就労継続支援 B 型
ユニバーサルスタジオジャパン 生活介護

- ③ 対象者： 利用者 18名 職員 7名 計 25名
 利用者 22名 職員 9名 ボランティア 2名 計 33名

④ 実施概要・目的

「障がい者の社会参加及び農業体験（日帰り旅行）」の実施

利用者同士の交流を目的とした日帰り旅行を実施した。事業別に分かれ利用者の希望を聞きながらプランを作成した。生活介護についてはなるべく公共機関を利用した社会参加プログラムに取り組み、就労継続支援 B 型についてはあまり経験をしたことのないプログラム（果実の収穫体験）に取り組んだ。

⑤ 成 果

就労継続支援 B 型の旅行については、自分たちで選択した旅行という意識が芽生え、行程時間内で行動することができた。また、ぶどうの収穫がはじめてという利用者がほとんどで、農家の方の説明を聞き、一人ひとりがはさみをもって収穫をおこなった。利用者からは「収穫したぶどうが食べれてよかった」「景色のいいところでバーベキューができてよかった」と感想を述べていた。

生活介護の旅行については、利用者の話を聞きながら職員がプランを 2 つ用意し、選んでもらいました。公共機関の利用については、①目的地までの切符の値段を調べる②券売機で切符を買う③切符を改札機に入れる④乗車時、ほかの乗客に迷惑がかからないように 2 列に並ぶの行程を組んで取り組んだ。経験がある人、難しい人などいる中で、わかる利用者がサポートしてうまく行程をおこなうことができた。利用者からの感想では、「おもしろかった」「楽しかった」「ステーキがおいしかった」と感想を述べていた。

⑥ 今後の展望

次年度は利用者ができることは取り組んでもらうを基本に、少しでも経験を積んでもらう日帰り旅行を実施したいと考える。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	100,000	ぶどう狩り費用	120,550	
福祉バス借上補助金	51,500	バス代・運転手費用	105,512	

自己資金	310,972	高速代	5,580
		USJ 入場料	140,800
		交通費 (JR)	6,200
		駐車場代	6,200
		高速代	5,280
		昼食代	72,350
計	462,472	計	462,472

15 支部名： ふれあいの里かたくら

- ① 実施日： 令和元年 12 月 28 日 (土) 施行
- ② 実施場所： ふれあいの里かたくら施設内
- ③ 対象者： 計 107 名
- ④ 実施概要・目的

「発電機の整備 (防災)」の実施

事業所では、重度心身障害者が多く、医療的ケア必要者は 25 名在籍。吸引器・人工呼吸器・加湿器などの機材を動かす電源は欠かせない。昨年の台風では施設に被害は出なかったが、地域の停電もあり、人工呼吸器を使用する家族は不安を抱えて過ごしている。施設としても災害対策を進めているが、非常時の電源の確保を目的にガスボンベ式発電機を購入した。

⑤ 成果

非常時等の緊急使用を想定し、職員にて使用方法の実技を行った。操作は、比較的簡単で、緊急時に使用しやすいが、説明書を発電機につけておくようにする

⑥ 今後の展望

緊急時に使用できる発電機を整備していることを利用者家族にも知らせ、安心につなげる。職員間でも練習し、緊急時に利用できるようにしておくことが必要と考える。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	ガス発電機	98,990

自己資金	48,990		
計	98,990	計	98,990

16 支部名： 福幸

- ① 実施日： 令和2年2月11日（火）
- ② 実施場所： いちご畑はる（とんぼ池観光農園）
- ③ 対象者： 利用者21名 職員4名 計25名
- ④ 実施概要・目的：

「利用者日帰り旅行」の実施

いちご狩りを通して地域の人達とのふれあい

⑤ 成果

利用者さん同士のコミュニケーションがとれたり、いちご狩りのスタッフさん達と触れ合い、お手伝いをする事で「有難う」といってもらえる喜び、利用者様達の笑顔が増え、とてもいい経験となりました。普段、一人で出かける事はもちろん、出かけるという事がない中で、皆さん喜んでおられました。

⑥ 今後の展望

助成をして頂く事で利用者様達が金銭面の不安なく楽しめた事がとても大きく皆さんに喜んで頂けました。

又、開放的な状況の中で普段見えないお顔がみれたり、お話ができました。

今後も地域の方との触れ合う企画を継続していきたいと思えます。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	いちご狩り参加費	75,000
自己資金	25,000		
計	75,000	計	75,000

17 支部名：ワークセンター小路〈支部協働〉

- ① 実施日：令和2年1月11日（土）
- ② 実施場所：寝屋川市立 エスポアール ふれあいの部屋 1,2
- ③ 対象者：新成人6名 家族4名 ゲスト1団体（11名）他1名 来賓4名
- ④ 実施概要・目的

「寝屋川成人のつどい」の開催

市内特別支援学校を卒業され20歳を迎えられる方及び市内障害者福祉サービス事業所を利用される方で20歳を迎えられる方を対象とした祝賀イベントを開催しました。寝屋川市内の障害児者福祉施設23施設が加盟する寝屋川市障害児者福祉施設協議会が共同で運営しました。

実施目的

- ・人生の一つの区切りである「20歳（成人）」を一緒に働き、生活する作業所や行政及び地域の人たちみんなで祝い、お互いが引き続き生活や仕事に「頑張っていく」ための出発点にしていく場とする。
- ・成人を迎える仲間たちと家族が「成人のつどい」を機に、生活を自覚的、積極的に過ごしていくことを感じる場としていく。

⑤ 成 果

何より成人を迎えた方や家族が笑顔いっぱい楽しく過ごすことできたと思います。また、司会進行は一般就労している先輩利用者をお願いしていたことで、日々頑張っている先輩を身近に感じる事ができ、明日への活力になったのではないかと思います。また、目的にもあげた、人生の一つの区切りである「20歳（成人）」を一緒に働き、生活する家族や事業職員だけでなく行政のトップでもある寝屋川市長 広瀬慶輔様をはじめ来賓の方々や地域のゲスト出演者の方々を祝えたことは、大きな成果であったと思います。新成人の紹介の中で、当日は残念ながら会場に足を運ぶことが出来なかった学生時代の先生、事業所や職場の皆様からもサプライズVTRメッセージを頂戴しましたが、皆さん好意的でとても温かいお言葉で新成人や家族にも喜んでいただけました。

イベント開催にあたり、地域の方々、行政、事業所間の共同を行い結びつきを強化することにもつながったのではないかと思います。このような、イベントを開催できたのも一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会様の助成事業のおかげです。ありがとうございました。

⑥ 今後の展望

はじめての開催ということもあり、参加案内、事業所への促し、市の広報への掲載など行ってきましたが、少数の参加になった。2回、3回と継続して行うことで、参加者の拡大をしていけたらと思いました。



⑦ 収支報告：

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,809	案内状等、郵送代	7,252
自己資金	0	飲料、茶菓子等	5,576
		ゲーム景品・CD代	12,815
		装飾代	4,166
		ゲスト出演料	20,200
		記念品代	10,800
		事務通信費	10,000
計	70,809	計	70,809

18 支部名： わくわく富田林（ワークメイト聖徳園）〈支部協働〉

① 実施日： 令和元年12月16日（月）～令和2年1月13日（月）

② 実施場所： The terminal Kyoto 京都市下京区

③ 対象者： 富翔会 作家 12名 聖徳園 作家 11名

④ 実施概要・目的：

「支部合同の障がい者アート展（京都）」の開催

2施設で実施されている創作活動の合同展覧会として、より多くの方に作品を見て頂ける機会を設け、参加利用者のモチベーションを高める一助とした。

また京都の町家を利用したギャラリーを使用する事により、よりアート性の高い展示を目的にしました。

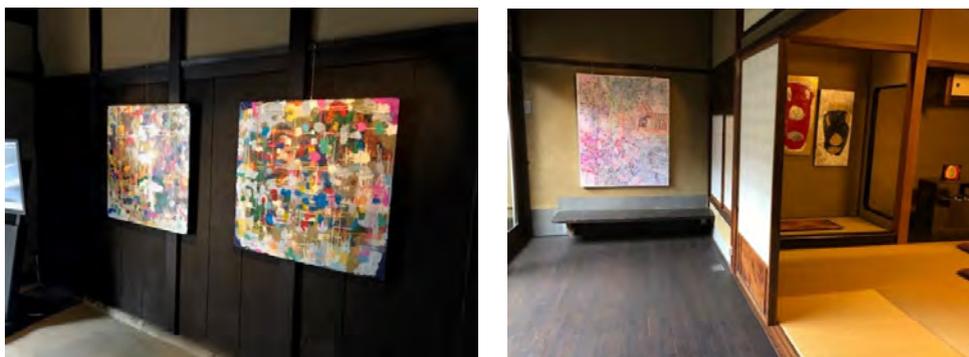
⑤ 成果

2施設での合同企画という事で製作から2施設で合同に活動できる事が出来、お互いの施設利用者にとっても良い刺激になったと思います。

展示会場に使用させて頂いた京都の町家ギャラリー自体のファンの方にも新たに作品を見て頂き、また幅広い視野で作品を見てもらえるとても良い機会になったと思われます。

⑥ 今後の展望

聖徳園との合同の展示を今後も続けていくとても良いきっかけとなり、制作も定期的に合同活動にしていきたいと思えます。また、ギャラリーで展示した為、障がいを持つ方のアート性の素晴らしさを様々な方に知って頂いたので、今後も色々な方と協力し合って世界を広げたいと思っています。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	200,000	絵画制作消耗物品費	60,167
自己資金	86,182	広告、物販、デザイン費	50,440
		物販用品製作費	103,345
		宣伝用広告郵送費	10,330
		宣伝広告費	42,090
		抛出入、運送費	19,810
計	286,182	計	286,182

19 支部名： 高井田苑

① 実施日： (a) 令和元年9月28日(土)8名/(b)10月19日(土)
(c)11月16日(土)/(d)12月21日(土)/(e)令和2年1月18日(土)
(f)2月15日(土)

② 実施場所： 地域活動支援センターさんねっと、柏原市立公民館、高井田苑食堂
高井田苑ひなた、神戸クックワールドビュッフェリノアス八尾店

③ 対象者： 地域で暮らす障がい児者・高井田苑利用者 (a)8名/(b)5名/(c)9名
(d)6名/(e)7名/(f)6名

④ 実施概要・目的

「障がい児者のための料理教室および学習会(座学と調理実習を通じて体感的に学ぶ)」
の実施。

⑤ 成 果

(a) 一日に食べるべき食物の量を手計りという方式で学び、適量を知る。

また、自宅で簡単に作れてバランスの良い昼食（サンドイッチ・スープ等）を作り、薄味でも美味しくするための方法を体感してもらう。

(b) 前回の復習をしてもらう。市販のラーメンに含まれている塩分と同様の塩をお湯に溶かして飲んでみることで、市販で売られているものを食べる際にはどうすればいいか考えてもらう。その後、コンビニで売られている生めんタイプのラーメンを作り、学んだことを実践できるか確認する。

(c) 前回の復習をした後、糖分について学習する。ジュースなどに含まれている糖分を具体的に知ることと、代替となる食品等について学ぶ。その後、豆腐やヨーグルトを使って糖分を抑えつつも甘みのあるお菓子作りを体感する。

(d) 前回の復習をした後、おせち料理の食材の意味を学習する。またパワーポイントを使い、動画を見て伊達巻やなます、栗きんとんの作り方を学び、その後実践する。

すべて電子レンジで作れるものとし、自宅でもチャレンジしやすいように配慮した。

また、市販の黒豆等も準備し、簡単な雑煮も作ってもらい黒盆に自分で盛り付けをし、オリジナルなお節料理を作成する。

(e) 参加者の希望であった簡単おやつ作りを体験する。フレンチトーストやグラノーラバーなどなかなか自分では作ることが出来ないものにチャレンジする。各グループに分かれて担当を持って取り組む。

最後には、お菓子プレートにし、豪華なティータイムを満喫する。

(f) これまでの復習をし、実体験としてバイキングのお店に出向き、学んだことを実践で行う。 バランスよく選ぶことが出来るか、適量を食べることが出来るかなどを栄養士や支援員と共に食事を楽しみながら試してみる。お店の対応も良く、席も並んで確保してもらえ、料理の種類も充実しており参加者にも非常に好評だった。

その後、最後の反省会を行い感想や今後やりたいことなどの希望を述べてもらい、減塩グッズ（減塩スプレー、電子レンジ用蒸し器）を記念品としてプレゼントする。

⑥ 今後の展望

武田塾法人調理部門が平成 30 年より苑内給食を開始し、今まで障がい者に関わったことのない栄養士も事業を通し、様々な方に接することができ、良い経験となった。高井田苑の入所者さんは重度の方も多く、なかなかご自身の言葉で気持ちを表現していただくことが難しい方も多いため、希望や感想などを伝えて下さる地域に暮らす障がい者さんに、高井田苑の栄養士もたくさん刺激を受けたようである。

勉強会は全部で 6 回実施したが、全てに参加して下さる方、お知らせを見て選んで参加して下さる方と、さまざまだったが、栄養士の分かりやすい教材の成果もあってか、毎回の振り返りの時には前回の学習内容を覚えておられる方も多く、継続して行うことの重要性を感じた。また回を重ねるごとに、参加者さんの希望を聞き、取り入れる

ことでより積極的に参加していただけるようになったと思う。

特に12月に行った「おせち料理に挑戦」では今まで作ったことのない栗きんとんや伊達巻が簡単にできることを知り、お正月に自宅で家族と一緒に作ったという声も聞かれ、勉強会の成果を感じる事が出来た。

単身で暮らす男性の参加者さんは毎回参加して頂いたが、勉強会の間だけでも「塩分や糖分を意識」して食事をされる姿も見られ、これを次の支援者に繋げていく必要性を感じた。最後に、私自身も久しぶりにサポート協会の助成事業を使わせて頂き、本当にこの事業の大切さを痛感した。地域で暮らす障がい者のために何かをしたいと考えた時、この助成があれば思い切ったことが私自身もチャレンジ出来、本当に楽しくまたよい経験になった。このような機会を与えていただいたことに感謝したい。ありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	材料費・バイキング料	46,508
自己資金	2,708	会場費	6,200
計	52,708	計	52,708

20 支部名： 地域生活総合支援センターきらら（こども発達支援センターmum）

- ① 実施日： 令和2年2月1日（土）
- ② 実施場所： 河内長野市立障がい者福祉センター あかみね 多目的ホール
- ③ 対象者： 関係機関、保護者 計61名
- ④ 実施概要・目的

「超早期療育への質の向上と地域へのコンサルティングの展開」

保護者、関係機関を対象に「早期療育への気づき」「早期療育のねらいと効果」と題して、武庫川女子大学 新澤信子教授による公開講座を開催した。その際、早期発見・早期療育に向けてのリーフレットを作成し、配布した。リーフレットについては引き続き、

子育て支援センター等の関係機関において配布する。

⑤ 成 果

南河内を対象として、早期療育への質の向上と地域への啓発活動を目的に 公開講座を開催した。保育所、幼稚園、児童発達支援事業所、子育て支援センターといった児童が実際に通う関係機関からの参加者が多く、「具体的な支援方法や周囲の関わり方、療育の意義、効果など幅広い視点でお話をしていただきとても参考になった」「学んだことを生かして支援をしていきたい」等の感想をいただいた。また、研修終了後には、新澤教授から、保護者支援やライフステージに応じた支援、日ごろの療育へのスーパーバイザーズをいただくことができた。公開講座の開催、リーフレットの作成により、事業所内だけでなく、地域の支援者のスキルアップにつながる取り組みが出来た。本人の困っていることの本質を知る、見ることを意識して役立てていきたい。

⑥ 今後の展望

今回の公開講座やリーフレットをきっかけに、核事業所の支援の質の向上や、連携の機会が増え、家庭や地域全体がスキルアップし、身近な環境の中で取り組みが進んでいけばよいと考える。



⑦ 収支報告

<収入> (円) <支出>

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	講師謝礼・交通費	31,840
自己資金	302	リーフレット作成	59,600
		チラシ印刷代	3,278
		振込手数料	220
		封筒・郵送費	4,126
		コピー用紙代	1,238
計	100,302	計	100,302

21 支部名： 堺みなみ〈支部協働〉

- ① 実施日： 令和2年2月21日（金）
- ② 実施場所： 堺市総合福祉会館
- ③ 対象者： 堺市内の障害児者福祉施設職員 参加予定者 205名
- ④ 実施概要・目的

「堺障害児（者）施設部会・実践交流会用冊子」の発行

各施設の代表者が実行委員として実践に基づいた利用者支援のテーマを決定しレポートを作成。月1回、定例で実行委員会を開催し、実行委員によりレポートの論議を行い、実践内容を深めるとともにレポートに反映。年1回、加盟施設全体でレポート発表および討議会を行う研修会「実践交流会」を開催予定。それらを通じ、ご本人の想いに寄り添い、その人らしい生活を支えていくために、堺の障害ある人たちのおかれている実態と課題を共有し、職員の悩みや課題を交流し実践に活かしていくことを目的とした。が、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、「実践交流会」は中止、レポート冊子発行のみとなった。

⑤ 成 果

今年度は12施設で15名、13本のレポートにより毎月の実行委員会が開催された。レポートの発表による討議の内容が、実際の利用者との関係性、関わり方、考え方、チーム連携等にダイレクトに活かされていた。その内容が次のレポートに反映され、そこからさらに課題を共有し理解につなげていくという好循環ができたのではないかと思う。また、毎月の実行委員会の開催場所を、それぞれの事業所を順番に回るという設定にしており、他事業所のことを知る機会にもつながっている。

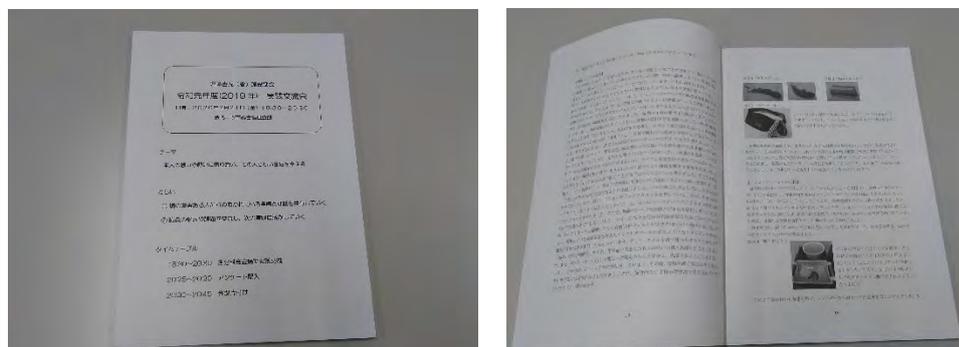
本年度は、最終目的である加盟施設全体でレポート発表および討議会を行う研修会「実践交流会」に205名の参加申し込みを受けたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け止む無く中止することとなった。しかしながら、貴協会より助成を受け作成されたレポート集を、参加申込者、参加事業所に配布することにより、実行委員会で得られたものを他職員へ伝え、利用者支援の現場に役立てていくものとする。

参加支部：青い鳥・堺あけぼの園・堺あすなろ園・ピュアあすなろ・アトリエ hana
堺みなみ・わららか草部・デイセンターフレンズ・くるみの樹・うららのお店・ケアスペースつむぎ・支援センターしらさぎ・パル・茅渟の里・ワークセンターつつじ
ジョブライフだいせん・おおはま障害者作業所・堺東部障害者作業所・せんぼく障害者作業所・ふれあいの里かたくら・ほくぶ障害者作業所・モンキーばなな・サニーサイト
他

⑥ 今後の展望

今後も継続して取り組みを続け、堺の障害児者福祉施設職員の学習及び実践を通じた交流を行っていくことにより、障害福祉のネットワークづくりや支援の質の向上に

つなげていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>	
項目	金額	項目	金額
助成金	125,278	レポート集作成	125,278
自己資金	0		
計	125,278	計	125,278

2.2 支部名： 寝屋川市立すばる・北斗福祉作業所

- ① 実施日： 令和元年12月2日、23日 令和2年1月20日、2月10日 計4回
- ② 実施場所： すばる・北斗作業所内
- ③ 対象者： 利用者 計73名
- ④ 実施概要・目的

「ドッグセラピー」の実施

・障害を持つ方々がより豊かな生活を送れるよう、作業所生活の中で、仕事以外の場面で色々な経験、体験をしてもらいたいとの思いで昨年度から計画していました。

実際、NPO法人心織（こころ）さんがドッグセラピーの活動している所に見学に行かせてもらったり、またこちらの事業所の実際を見させていただき、今年度の実施に向けて進めてきました。予算面では、大阪生活サポート協会の助成事業を活用させていただくことで、今年度実施の運びとなりました。

・犬が好きな人は楽しんで、そうでない苦手な人もセラピー犬との触れ合いを通して少しずつ距離が縮まり慣れていくことや変わっていく自分自身の気持ちを実感してもらうことを目的に実施しました。

実施日	対象者・人数	備考
12月2日	軽作業Ⅱ科 15名	作業所内で最も重度な利用者が所属している科目 《生活介護》

12月23日	チャレンジⅡ科 16名	一定自立している方が所属している科目 《就労継続B型》
令和2年 1月20日	木工・園芸科 21名	知的に重度な方が所属している科目 《生活介護》
2月10日	チャレンジⅠ科・軽作業Ⅰ科 21名	就労を目指している方が所属している科目《就労移行》と知的に重度な方が所属している科目 《生活介護》

⑤ 成 果

・以前に犬にほえられて、もしくは噛まれた等で怖い、嫌い、イヤ等の印象で最初は全く近寄れもしなかった利用者が、近づけたり、最後には触れることができたりと、それぞれの利用者の犬に対する印象が変わったこと。(セラピー犬が全くほえなかったので利用者みなさんも少しずつ近づくことができました。)

・集団で行う取り組み(みんなといっしょだからできる)としての効果

・普段、犬(動物)と触れ合う機会のない方にとっては、いい機会になったのではないかと思います。また本来の主訴である仕事の合間にセラピー犬と触れ合い、ほっと一息“癒し”を感じることもできたのではないかと思います。

⑥ 今後の展望

本来セラピー犬の取り組みは継続していくことに意味があると考えています。継続していくことで、近づいただけ、触れただけ(本当はまだ怖い)から、やがては楽しみに変わっていく、変えていくために、どんな形で実施するかわかりませんが、継続できたらと思います。

継続していくことで障がいを持つ人が、犬だけでなく動物、生き物に対する感情につながっていけば、利用者の生活がより豊かなものになるのではないかと考えています。今年度の成果を検証し、次年度の取り組みに生かしていきたいと思っています。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
----	----	----	----

助成金	100,000	備品（カーペット）	21,815
自己資金	1,815	謝礼（4回分）	80,000
計	101,815	計	101,815

23 支部名： こんごう福祉センター しいのき寮

- ① 実施日： 令和元年7月16日、9月16日、11月26日、1月26日
令和2年2月25日
- ② 実施場所： しいのき寮管理棟
- ③ 対象者： 職員延べ 88名
- ④ 実施概要・目的

「施設コンサルテーション」の実施

福祉型障がい児入所施設しいのき寮には、虐待を主訴に入所した利用者や発達障がいなどの生きづらさを抱えた利用者が多く入所しており、これらの利用者の支援には利用者が安全・安心感を持つことができる生活環境の保障や心のケア等、高い専門性に基づいた支援、他機関と連携した重層的な支援が求められる。

そこで今年度は、活動助成を受けながら、年度内に5回、施設外部の専門性や支援経験に長けたスーパーバイザーとして大阪母子医療センター子どものこころの診療科診療部長の小杉恵氏を招へいし、利用者支援へ助言をいただく機会を設けた。

しいのき寮利用者支援に係るスーパーバイズ実施状況（実施場所：しいのき寮管理棟）			
日程	時間	研修会テーマ/報告事例（担当者）	参加人数
7/16	10:00 ～ 12:00	研修「性的問題行動の理解と支援」 事例報告「高校3男子Kさんの事例検討」 （しいのきC棟：木下支援員）	18人
9/16	10:00 ～ 12:00	研修「アタッチメントに課題を抱えた子どもの支援について」 事例報告「中3女子Mさんの事例検討」 （しいのきD棟：中東支援員）	17人
11/26	10:00 ～ 12:00	研修「退陣関係の築き方に課題を抱えた子どもの支援について」 事例報告「中2男子Iさんの事例検討」 （しいのきA棟：和田支援員）	23人
1/28	10:00 ～ 12:00	研修「思春期とLSWについて」 事例報告「小6男子Sさんの事例検討」 （すぎのきC棟：前田支援員）	17人
2/25	10:00 ～ 12:00	事例報告「最終報告会」 （各棟担当者） 研修「子どもが体験してきたこと、子どもが抱えている問題に支援者としてどのようにかかわるか？」	13人

⑤ 成 果

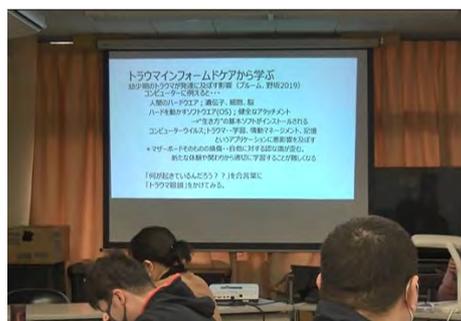
今年度は計画通り 5 回の研修会を実施し、虐待を背景に入所した利用者を抱える 4 つの棟の報告と最終回の全体報告を行うことができた。

研修会参加者アンケートからは“対象となった利用者の理解や支援に役立てることができた”との回答が多く参加者にとって有意義な機会となった様子がうかがえた。

⑥ 今後の展望

複雑化、重度化する入所者の支援ニーズに対応するためには、施設内での支援にとどまらず、関係機関と連携した重層的な支援が求められている。

このことから外部の専門家との連携は今後も必要と思われる。今年度の取り組みを単年度で終わらせることなく、寮内の研修費予算を確保し次年度も今年度同様の研修会を実施していきたい。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>	
項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	講師謝礼 (5 回分)	146,300
自己資金	96,300	29,260×5 回分	
計	146,300	計	146,300

2.4 支部名： 二色福祉会

- ① 実施日： 令和 2 年 2 月 29 日 (土)
- ② 実施場所： 貝塚市民会館コスモシアター小ホール
- ③ 対象者： 地域住民 34 名
- ④ 実施概要・目的

「法人主催福祉講座 (映画上映会)」の実施

法人事業の一環として、毎年地元地域住民に向けて障がい及び社会福祉に対する理解を深めてもらうことを目的とした「福祉講座」を開催している。

令和元 (2019) 年度は、障がい者がヘルパー (介護者) 付きで地域で暮らす様子を撮った『道草』という映画を上映した。

⑤ 成 果

「親亡き後は入所施設かグループホームの二択しかないと考えていたが広がった」「こんな制度があったんだ」等の意見が挙がり、地域生活について再考してもらう機会となりました。

⑥ 今後の展望

今後も地域の方に向けての啓発活動を検討していきます。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	84,615	映画上映費	34,770
自己資金	0	会場・器材レンタル費	34,630
		フライヤー作成費	5,544
		上映器材調達費	7,550
		雑費	2,121
計	84,615	計	84,615

25 支部名： ういず守口

① 実施日： 令和元年9月27日（金）～28日（土）

② 実施場所： のどか村・生駒山頂遊園地

③ 対象者： 利用者38名 職員28名 合計58名

④ 実施概要・目的

「メンバー旅行（年に1度の大会イベント）」の実施

⑤ 成 果

昨年度から就労系のメンバーとは別れて、今年度もゆっくりのペースで旅行を楽しむことができました。ホテルでの、宴会も多少のハプニングがありながらも、出し物をやりきり楽しめました。これも、日々の日常の積み重ねがあったからこそ、一泊という大きな行事を楽しめたのだと思います。

⑥ 今後の展望

今年度も、夏前からメンバー達で旅行委員を決めて会議を重ね、旅行へのイメージ作りをしてきました。比較的重度な知的障害を持つ方たちが多数ですので出来るだけ早くから、会議を持ち、混乱することが無いよう、今後も日頃の慰労とメンバー同士の懇親を目的に続けていきたいと思えます。この度の助成の程、ありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	交通費	278,640
自己資金	1,135,816	宿泊費	769,500
		食費(昼食代)	111,540
		駐車場代	4,000
		高速料金	10,880
		旅行手数料	5,000
		下見代	2,440
		おやつ代	19,716
		入場料・チケット代	34,100
計	1,235,816	計	1,235,816

26 支部名： こども発達支援センターSun

- ① 実施日： 1 令和元年12月7日(土) 先田さん講師による撮影会実施
 2 令和2年2月1日(土) アルバム作成作業
 3 令和2年3月7日(土) サポート協会「ホームページ作品展示コーナー」への応募作品作成
- ② 実施場所： 1 岡山市備中川面駅
 2 河内長野市地域生活総合支援センターきらら
 (河内長野市カメラのキタムラ)

3 富田林市市民会館会議室

- ③ 対象者： こども発達支援センターSun 土曜日グループ療育利用児
「四季島」グループ 4名

④ 実施概要・目的

「四季島グループによるホームページ作品展示コーナー応募のための取材活動」の実施

今年度、こども発達支援センターSunでは、放課後等デイサービスの一環として、発達障がいのある中学生を対象とし、グループ活動を通じて社会性、自発性、協調性等の育成を目指してきました。今年度の活動は子供たち共通の趣味である「鉄道写真」を共通言語として、ひとりでは経験できない、遠い場所での撮影会を計画しました。その経過の中で、障がいがありながら自分たちと同じカメラを趣味とし、その技術を活かして活躍されているプロの写真家「先田さん」の存在を知りました。

しかし、先田さんは広島県に在住されており、容易に接点を持つことができませんでした。今般、貴サポート協会の助成を受けることができたことで、先田さんがおられる広島県と大阪の中間地点にあたる岡山県にて、先田さんのアドバイスのもとでの「合同撮影会」を計画することができました。そして、幻の写真スポットとして有名な「備中川面線」で撮影会を実現することもできました。プロカメラマン先田さんの話を聞き一緒に写真を撮影した時間と経験は子供たちにとってなにもものにも代えがたい大切な宝物となりました。

⑤ 成果

- ・自分たちのこだわりを最大限に活かしたアルバムとサポート協会ホームページ作品展示コーナー応募のための作品を完成することができました。

- ・サポート協会の助成金をうけることで当事者の先輩でプロとして活躍されている写真家を講師として招くことができました。子ども達にとっては写真家の専門的な視点からカメラ撮影の技術を学ぶこと、そして趣味を仕事につなげ自分らしく生きることとはどういうことかを考える機会となりました。好きな活動だからこそ講師の方のアドバイスをうけいれるという社会性の向上も見られました。

また助成金による子どもたちの交通費負担を軽減することができたことでグループ全員で憧れの撮影スポットでの撮影が可能となりました。

⑥ 今後の展望

今後、子ども達にとって予想外のことが起きた時に、どうリカバリーするのか、自分の好きなこと興味のあることを仕事にしていくとき、物事をどう進めていくかが大切だと考えています。

これからも子ども達の知識と経験の両方をひろげていくことでさまざまな社会の課題や人生の問題に立ち向かう態度が培えるような支援を継続していきます。最後に本活動に助成を頂いたことに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	利用者旅費	44,460
自己資金	35,550	アルバム制作費	10,560
		講師交通費	14,680
		講師謝礼	15,000
		雑費	850
計	85,550	計	85,550

27 支部名： わお

- ① 実施日： 令和元年 10月7日（水）～8日（木）
- ② 実施場所： 大阪市（ユニバーサルスタジオジャパン、大阪市立科学館）
- ③ 対象者： 事業所利用者 14名、事業所職員 11名 計 25名（うち日帰り 7名）
- ④ 実施概要・目的

「一泊二日宿泊訓練」の実施

利用者の生活力向上に向けて公共機関を利用するとともに、利用者同士の親睦を深めること、事業所では見ることでできない利用者の姿（着替え、入浴、整容など）を職員が知る事によって今後の支援に役立てることを目的に実施しました。

枚方市駅から公共交通機関を利用し USJ へ行く。18時まで楽しんだ後、夕食を摂りホテルへ。23時までに就寝。翌日は7時までに起床。JR を使って大阪市立科学館へ行き、プラネタリウムを鑑賞した後、昼食を摂り、帰路に就く。

⑤ 成 果

普段知ることの出来ない利用者の方の入浴の様子などに触れることができ、ご家族の方からの相談に応えることができた。また、電車を乗り継いで出かけたり、切符で改札を通ることなどは経験したことのない利用者の方もおられたため、良い経験になった。テーマパークでは普段見られないような笑顔を見ることができた。利用者さん同士も、

ホテルの部屋で事業所ではあまりしたことのないような恋バナ等で盛り上がり親睦が深まった。

⑥ 今後の展望

普段事業所に来て見せている姿だけが利用者さんの姿だと思っていたが、改めていろいろな姿を見ることができ、今までよくわからなかった好きなテレビや、入浴時や起床時のこだわりなどは、今後の支援の参考にしていきたい。

今後も年に1度程度宿泊訓練を実施し、余暇活動の支援を含め日常生活を支援していきたいと考えている。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	宿泊費・USJ 入場料	283,400
自己資金	353,866	振込料	550
		食事代	96,482
		交通費	15,680
		行事保険代	5,954
		その他、雑費	1,800
計	403,866	計	403,866

28 支 部 名： コルメナ

- ① 実施日： 令和元年11月1日(金)
- ② 実施場所： 大阪市都島区ほか(ホテル京阪、大阪水上バス)
- ③ 対象者： 利用者25名、職員9名 計34名
- ④ 実施概要・目的

「生活介護事業所『コルメナ』の日帰り旅行」の実施

いつもの慣れた空間から飛び出し社会性を身につけ、普段できない体験をするため。ホテルのレストランで食事をし、お買い物、水上バスで観光。

⑤ 成 果

レストランのランチバイキングで一般のお客様もいるなかでマナーを守りつつ食事を楽しみ、お土産物屋さんではご家族の希望のものや自分の好きなものを探してお買い物をしました。水上バスでは舳から船にかかる橋を渡れなかった方もおられましたが、ほとんどの方が船に乗り込み、席に落ち着いて景色を楽しみました。

⑥ 今後の展望

いろいろな体験が日常生活の応用や自信につながるよう、今後も機会を設けていく。



⑦ 収支報告：

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50000	貸し切りバス	149,600
自己資金	106,120	通行料金・駐車料金	8,920
利用者負担	125,000	昼食	79,200
		水上バス アクアライナー	29,580
		その他（旅行傷害保険等）	13,820
計	281,120	計	281,120

2 9 支 部 名： 総合福祉センターさくら

① 実 施 日：(1) 座学・雑貨作成・体験

令和元年10月1日(火)から令和2年3月31日(火)まで断続的に実施

(2) 出張アロマ

令和2年1月27日(月)・2月17日(月)・3月18日(水)の計3回実施

② 実施場所：(1) 座学・雑貨作成・体験実施・・・総合支援センターさくら

(2) 出張アロマ・・・さくらんぼる一む下田部、さくらんぼる一む津之江

③ 対 象 者：総合支援センターさくら利用者19名(うち出張アロマ2名)、市民・関係者13名

④ 実施概要・目的

「障がいのある人たちの地域における役割づくりと就労支援」の実施

当施設のアロマ資格を有するスタッフが講師となって障がいのある人たちにアロマ

の技術を身につけて頂き、福祉施設などを訪問して施設を利用されている利用者や介護者に対してストレス緩和を目的としたアロマサービスの提供を行い、地域における役割づくりと共に工賃の向上、理美容業界への就労の促進を目的として下記の事を行った。

(1) アロマ基礎知識研修・・・アロマセラピーについて理解し、安全に活用するために必要な知識を身につけました。

(2) アロマ雑貨の作成・・・本来なら(3)足浴・手浴体験を先に実施する予定だったが利用者様の様子を見て皆さんで楽しんで取り組める創作活動及びアロマ雑貨(授産品)の作成を行いました。

(3) 足浴・手浴体験・・・利用者様のリラクゼーション(アロマ)体験とアロマの実践を行いました。

(4) 出張アロマ事前研修(実技・マナー)・・・個々の利用者様に合わせたカリキュラムを策定し、事前研修を行いました。

(5) 出張アロマ・・・福祉施設や地域交流の場などを出張先としてカリキュラム認定者については有償活動として、未認定者は実習として参加予定としており、出張アロマの体験を積み重ねながら、アロマ関連企業や理美容業界に特化したコンサルティング会社との連携を行い、理美容業界への就労などに繋げて行きます。

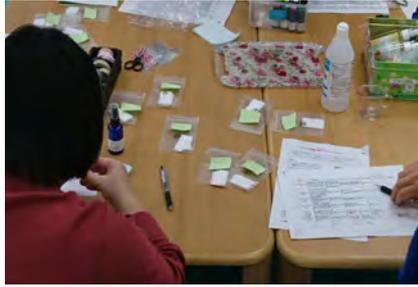
⑤ 成果

当初のスケジュール通りではなく随時、利用者様の様子を見ながらスケジュール変更を行いながらでしたが、利用者様(特に女性の方)が非常に興味をもたれ積極的に取り組んでいただいたことをはじめ、大きな目的のひとつである出張アロマを同一法人の他事業所ではありますが実施できたのは大きな成果であると思います。

ただ1月以降に予定していた他法人の高齢者施設や共生型子ども食堂などへの出張アロマおよびコンサルティング会社との連携についてはインフルエンザおよび新型コロナウイルスの影響で軒並み中止・延期となったのは残念です。

⑥ 今後の展望

新型コロナウイルスの影響で1月以降の予定が中止・延期となったが、継続的に施設内においてアロマの取り組みを行い、それぞれの利用者様の希望や適性を考慮しながら、先ずは社会における役割(支えられるだけでなく、支える役割)を創り出し「わがごとまるごと」地域福祉の担い手になるように支援を行い、希望される利用者様については理美容業界における障がいのある人達の就労に繋げて行きます。



⑦ 収支報告：

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	アロマ精油代	16,830
自己資金	3,937	フットバスバケツ	5,000
		フェイスタオル	7,995
		エプロン	13,200
		バスマット	6,072
		スプレーボトル	4,840
計	53,937	計	53,937

Ⅱ 資 料

- 令和元年度支部活動等助成事業実施要項
- 令和元年度支部活動等助成事業実施支部一覧
- 大阪生活サポート協会の理念と事業

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和元(2019)年度支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、大阪生活サポート協会という。)定款に則り、知的障がい児者・自閉症児者(以下障がい児者という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(生活サポート総合補償制度に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、支部という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
新規：コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 事業所の第三者評価受審に係る助成
新規：第三者評価機関による事業評価の実施
 - (8) 防災に関する事業
新規：防災に関する研修、防災士等資格取得に係る助成
 - (9) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

5. 選考に際しては、次の各項を勘案します。
 - (1) 新規申請支部を優先する。
 - (2) 緊急性が高いと判断される事業
 - (3) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
 - (4) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)
 - (5) 日帰り旅行・宿泊訓練(旅行)については、企画内容を重視する。
 - (6) 施設・事業所等の補修、改修、備品購入等に関する費用は、原則として助成対象としない。

(助成対象期間)

6. 平成31年4月1日から令和2(2020)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、
会員5人以下：5万円を上限、会員6人以上：10万円を上限とする。

(2) 下記に示す地区ブロック単位で複数の支部が協働して事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を考慮し、30万円を上限として助成する。複数の地区ブロックが合同で実施する場合も可とする。

(3) 地区ブロック単位あるいは複数の地区ブロックが事業を実施する場合は、大阪生活サポート協会との共催事業とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。

(4) コンサルテーション事業・第三者評価受審については、1事業所15万円を上限とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

(1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)

(2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和2年(2020)3月に事業実施した場合は、4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。

(3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。

(4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページに掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。

(1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めるときは、助成額の範囲内であれば実績額を令和2年4月末までに指定の口座に振り込むこととする。ただし、助成額を超える場合は、各支部等の自己資金で賄うものとする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の令和元(2019)年度の申し込み期日は、令和元(2019)年8月20日(火)までとする。
(当日消印有効。)

(その他留意事項)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。

(1) 事業実施に際しては、大阪生活サポート協会の助成事業であることを利用者・家族、関係者等に伝えるとともに、報告書に大阪生活サポート協会からの助成事業であることを明記した配布物や行事案内を、あるいは事業実施当日に表示されている状況(写真)を添付すること。

(2) 大阪生活サポート協会からの助成事業であることを表示しない場合は、助成しないものとする。

附則 平成31年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F

TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988

E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和元年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

法人名	支部名	令和元年度		加入者数	概要
		希望金額	助成金額		
1 (社福) まりも会	わかたけ	100,000	100,000	21	<p>「わかたけ創立20周年を記念する会」の開催 令和元年9月21日</p> <p>施設外の施設で式典を行った。利用者、家族、職員、法人職員、総数88名参加。日頃は利用者、家族ともに高齢化し外出の機会が減る中、自分たちではなかなか行けない場所へ外出する機会にもなった。また、職員・家族との交流の場になった。利用者にとってはなれない場所での会であったが、それが新鮮で良かったのか仲間同士の会話も弾み良い式典となった。</p>
2 (社福) たけるの里	たけるの里	100,000	100,000	37	<p>「利用者一泊旅行」の実施 令和元年9月5～6日</p> <p>1年に一度、利用者と職員が寝食を共にし、共有する思い出づくり。また、身の回りの事を出来るだけ自分で行ってもらい自立へのきっかけになるよう支援することを目的に実施した。須磨海浜水族園ではイルカのショーを楽しみ、淡路島牧場では、普段体験できない乳しぼり体験を行い、利用者それぞれ楽しい思い出を作ることができた。</p>
3 (社福) さん・すまいる	(社福) さん・すまいる	100,000	100,000	8	<p>「利用者一泊旅行」の実施 令和元年9月20～21日</p> <p>家族以外の場で過ごす体験の少ない、利用者にとっって宿泊学習を積み重ねることで、環境が変わっても「食べることができ」「お風呂に入る」「寝ることができ」など日常と変わらぬ生活が送れるよう自律する気持ちを作ることができた。また、観光や体験などの社会学習の中からルールやマナーを学び、集団行動により協調性や思いやりを育むことができた。</p>
4 (社福) ひびき福祉会	アクティブセンター ひびき	100,000	50,000	3	<p>「ひびきまつり」の開催 令和元年9月16日</p> <p>事前に地域に案内ポスター掲示・ちらし配布を行い、300名を超える方が来られた。事業所の紹介コーナーや「夢」をテーマにした利用者の作品展も実施。また障がい者団体「WAKUWAKU座」によるステージなども行い、好評であった。この祭りを開催することで、地域の皆様にも来ていただき、ひびき福祉会の事業について、そこで働く利用者さんの様子、障がいのある方達のステーションを通じて障害者福祉に対する理解が深まったのではないかとと思われる。</p>
5 (社福) 若草会	若草園	100,000	100,000	57	<p>「第3回若草の納涼大会」の開催 令和元年9月29日</p> <p>地域の祭りに参加困難な、利用者の方々に楽しんでいただくとともに、地域との繋がりを深めることを目的に開催した。天気に恵まれ、2年ぶりに開催することができ、ご利用者、ご家族、地域の方々、大変楽しんでいただき、喜んで頂くことができた。また、ボランティアの方々との協力もあり、無事納涼大会を成功することができた。</p> <p>この納涼大会を通じ、改めて地域及びボランティアとの繋がりの必要性、重要性を再確認した。</p>
6 (社福) 大阪府肢体不自由者協会	守口障害者支援センター ひだまり	100,000	100,000	12	<p>「利用者の社会参加を目的とした日帰り研修旅行」の実施 令和元年6月13日</p> <p>利用者の社会参加を目的に毎年実施。今年度は大型バス2台を借りて京都に行き、京都クラフトセンターで素焼き人形の絵付けの体験を楽しんだ後、ホテルグランディア京都のレストラんでランチを堪能した。</p> <p>皆様からは、楽しい体験ができ、食事も美味しく良かつた、また行きたいという意見を多くいただき、職員も利用者のいっしょと違う様子や楽しそうな笑顔を見ることがとても良かったので、また来年も実施したいと思っている。</p>
7 (社福) 障友会	うららのお店	50,000	50,000	4	<p>「創立20周年記念事業」の実施。 令和元年10月26日</p> <p>開所から20年の歩みを皆で振り返り、感謝の気持ちを伝えるとともに、20周年を迎えることができた喜びと今後の方向性を共有することを目的に実施。利用者の方々にも20年の思い出を発表していただき、『うららのお店20年の歩み』のスライド鑑賞・会食などを行った。20年の重みと喜びを実感し、皆で共有することができた。『地域に根差した施設』をこれからも発展させ、利用者の方々が地域で生きがいを持って働くことができるよう支援を行うとともに、地域に必要とされる施設を目指していきたいと考える。</p>

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和元年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法人名	支 部 名	令和元年度		加入者数	概要
			希望金額	助成金額		
8	(社福) 北摂杉の子会	ぶれいす Be	100,000	100,000	34	「第8回杉の子農園収穫祭」の実施 令和元年10月30日 2年ぶりに従来の規模(参加者200名規模)に戻して収穫祭を開催した。予定日の29日が雨天で、翌日に順延して開催したため予定されていたご家族の参加や手伝いが若干減ってしまっただが、多くの利用者に加え、地域の方々も(主に農園の関係者)来場していただきました。さまざまな事業所のご利用者・ご家族・職員・地域の方々が集まり貴重な交流の場になった。
9	(社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ	100,000	100,000	22	「くるみ秋まつり」の開催 令和元年10月19日 日頃より当事業所の運営にご理解をいただき、サポートしてくださっている地域の皆様と催しや屋台などを通じてふれあう場として、また事業所内には活動中の写真などを展示して地域の皆様に尊厳の様子を知っていただく情報発信の機会として実施した。また地域の障がい者施設の協力もあり支援者同士の交流や、ガイドヘルパーを利用して来場してくれた他利用者の方との交流など、改めて地域協働の重要性を感じる機会となった。
10	(社福) いずみ野福祉会	高石市障害作業所	100,000	100,000	21	「利用者一泊旅行」の実施 令和元年9月26～27日 各仕事のグループから『旅行係り』を中心に利用者から希望を聞き、話し合いながら旅行の準備を行い、他の作業グループとも交流を図ることを目的に実施した。当日はバスの中のレクリエーションの司会や宴会の進行を『旅行係り』が務め、旅行を盛り上げていた。またホテルの部屋やグループ行動の中でグループを超え交流し、お互いに応援する姿が見られた。参加者全員が笑顔で帰路につくことができ、旅行の目的は達成できたと思われた。
11	(社福) 信貴福祉会	ワクワクセンターひばり	100,000	100,000	23	「施設利用者一泊旅行」の実施 令和元年9月12～13日 日常と異なる環境で過ごし、楽しい活動や体験を通して、利用者同士の関係を深めること。見通しや期待感を持って、普段できない活動に取り組み、利用者一人ひとりの生活の幅を広げることを目的として実施。 グループ班を超えて利用者同士が関わりながら、体験や観光を楽しむ姿があり普段から日常生活を共にしている利用者と一緒に行くことで安心感があり、旅行という非日常の場でも、周囲の人の動きを見ることが見通しを持って活動に参加することができていた。
12	(社福) 北摂杉の子会	北摂杉の子会 (LaLa-chocolat-TAKATSUKI)	100,000	50,000	5	「障がい児者のサッカーフェスティバル」の開催 令和元年11月9日 趣味が少なく、余暇が限られている方も多いたがサッカーを競技する、観戦する、他事業所のご利用者やスタッフ及び学生やコーチ等と交流するなどの楽しみを提供することができた。また、健康づくりの推進と参加、観戦、応援等を通して、学生、コーチ、ご家族、地域の人(ボランティア等)、他事業所、他法人とつながりができ、仲間作りの推進にも役立ち、表彰される機会を設定することで、ご利用者のモチベーションにつながったと考ええる。
13	(社福) 大阪府障害者福祉事業団	かつらぎ (ごんごう・にじよう)	300,000	300,000	23	「日帰り親睦バスツアー」の実施 令和元年11月23日 グループホームの利用者の多くは、かつては1つの事業所に所属されていた交流が盛んであったが、高齢化などの問題により3事業所に分かれてしまった。利用者間の交流が希薄になり、「交流の場を作ってほしい」「みんなと一緒にどこかへ出かけたい」などの声が増えてきたため実施。実施後は喜びの声を多く聞くことができ、一番声が多かったのは、事業所が離れて会えなくなっていた利用者さんとういう意見であった。実施した目的は、利用者さんかからいた意見を一致することができたので、目的は達せられたと考ええる。
14	(社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センター中	100,000	100,000	9	「障がい者の社会参加及び農業体験(日帰り旅行)」の実施 令和元年10月4日、11月8日 利用者同士の交流を目的とした日帰り旅行を実施した。公共機関を利用した社会参加プログラムとあまり経験をしたことのないプログラム(果実の収穫体験)に取り組んだ。自分たちで選択した旅行という意識が芽生え、行程時間内で行動することができた。また、公共交通機関を利用することでマナー等の習得にも取り組むことができた。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和元年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法人名	支 部 名	令和元年度		加入者数	令和元年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
15	(社福) コスモス	ふれあいの里かたくら	100,000	50,000	3	「発電機の整備（防災）」の実施 令和元年 12 月 28 日 事業所では、重度心身障害者が多く、医療的ケア必要者は25名在籍。吸引器・人工呼吸器・加湿器などの機材を購 動かす電源は欠かせない。施設として災害対策の一環として、非常時の電源の確保を目的にガスボンベ式発電機を購 入した。非常時等の緊急使用を想定し、職員にて使用方法の実技を行った。発電機の整備を利用者家族にも知ら せ、安心感につながられたと考える。
16	(NPO) 福幸	福幸	100,000	50,000	2	「利用者日帰り旅行」の実施 令和2年2月11日 法人内のGH・作業所利用者対象にいちご狩り実施。利用者同士とのコミュニケーションがとれたり、いちご狩り のスタッフとの触れ合い、お手伝いをすることで「有難う」といってもらえる喜び、利用者の笑顔がふえ、とてもい い経験となった。今回の助成により利用者が金銭面での不安なく楽しむことができた。
17	(社福) 讃良福祉会	ワークセンター小路	100,000	70,809	25	「寝屋川成人のつどい」を開催 令和元年1月11日 市内特別支援学校卒業され20歳を迎えられる方及び市内障害者福祉サービス事業所を利用される方で20歳を迎え られる方を対象とした祝賀イベントを実施。第1部は式典、第2部は成人者の発表・歌・ゲーム・ビンゴなどを企画。 寝屋川市内の障害児者福祉施設23施設が加盟する寝屋川市障害児者福祉協議会が共同で開催した。イベント開催に あたり、地域の方々、行政、事業所間の共同を行い結びつきを強化することにもつながったと感じた。
18	(社福) 富翔会	わくわく富田林 (ワークメイト聖徳園)	212,240	200,000	12 7	「支部合同の障がい者アート展」の開催 令和元年12月16日～令和2年1月13日 2 施設で実施されている創作活動を合同展覧会として、より多くの方に見て頂ける機会を設け、参加利用者 のモチベーションを高める一助とした。また、京都の町家を利用したギャラリーを使用し、よりアートの高い展示 を目的として実施。合同実施により、お互いの利用者に良い刺激となったと共に、障がいを持つ方々のアートの素晴 らしさを様々な方に知っていただくことができた。
19	(社福) 武田塾	高井田苑	50,000	50,000	48	「地域在住障がい児・者および施設利用者対象の調理実習」の実施 令和元年9月28日～令和2年2月15日 上記の期間で6回実施した。各回ごとにテーマを決め、地域相談支援センターと当法人給食部が連携し、地域で暮 らす障がい児・者に参加を募り、当施設利用者と共に、給食部の栄養士・調理師と調理実習を行った。単なる調理実習 ではなく、食事に関する正しい知識を伝え、栄養指導すると共に、今後の生活に役立つようなリーフレット等を準備、 配布も行った。今まで障がい者に関わった経験のない栄養士も、様々な方に接することが出来、良い経験となった。
20	(社福) 大阪府障害者 福祉事業団	地域生活総合支援センタ ー さらら(こども発達支 援センターmum)	100,000	100,000	19	「超早期療育への質の向上と地域への質の向上と地域への啓発活動」を目的に公開講座を開催した。保育所、幼稚園、 南河内を対象として、早期療育への質の向上と地域への啓発活動を目的に公開講座を開催した。保育所、幼稚園、 児童発達支援事業所、子育て支援センターといった児童が実際に通う関係機関からの参加者が多く、好評であった。 研修会終了後は、講師より保護者支援やライフステージに応じた支援、日ごろの療育へのスーパーバイズをいただく ことができた。
21	(社福) 障友会	堺みなみ	162,500	125,278	44	「堺障害児（者）施設部会・実践交流会用冊子」の発行 令和2年2月21日 各施設の代表者が実行委員として実践に基づいた利用支援のテーマを決定しレポートを作成。月1回、定例で実 行委員会を開催し、実行委員によりレポートの論議を行い、実践内容を深めるとともにレポートに反映した。レポー ト発表および討議会を行う研修会「実践交流会」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「実 践交流会」は中止、レポート冊子発行・配布のみとなった。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和元年度 支部活動等助成事業実施支部署一覽

	法人名	支 部 名	令和元年度		加入者数	概要
			希望金額	助成金額		
22	(社福) 療育・自立センター	復屋川市立 すばる・北斗作業所	100,000	100,000	28	「ドッグセラピーの取り組み」の実施 令和元年12月2日、23日 令和2年1月20日、2月10日 障害を持つ方々がより豊かな生活を送れるよう、作業所生活の中で、仕事以外の場面で色々な経験、体験をしてもらいたいとの思いで昨年度から計画・実施した。犬が好きなのは楽しんで、そうでない苦手な人もセラピー犬との触れ合いを通して少しずつ距離が縮まり慣れ、いくつことや委わっていく自分自身の気持ちを実感してもらおうことを目的に実施した。仕事の合間にセラピー犬と触れ合い、ほっと一息“癒し”を感じることができたのではと思う。
23	(社福) 大阪府障害者 福祉事業団	大阪府立こんごう 福祉センター しいのき寮	50,000	50,000	1	「施設コンサルテーション」の実施 令和元年7月16日、9月16日、11月26日、1月26日、令和2年2月25日 唐待を主訴に入所した利用者や発達障がいなどの生きづらさを抱えた利用者が多く入所しており、これらの利用者への支援には利用者が安全・安心感を持つことができる生活環境の保障や心のケア等、高い専門性に基づいた支援、他機関と連携した重層的な支援が求められる。そこで今年度は、活動助成を受けながら、年度内に5回、施設外部の専門性や支援経験に長けたスーパーバイザーとして大阪母子医療センター子どもこころの診療科診療部長の小杉恵氏を招へいし、利用者支援へ助言をいただく機会を設けた。
24	(社福) 二色福祉会	二色福祉会	100,000	84,615	20	「法人主催福祉講座（映画上映会）」の実施 令和2年2月29日 法人事業の一環として毎年、地元地域住民に向けて障がいや社会福祉に対する理解を深めてもらうことを目的に「福祉講座」を開催。今年度は障がい者がヘルパー（介護者）付きで地域で暮らす様子を撮った『道草』を上映した。参加者には、障がい者の地域生活の在り方について再考していただく良い機会となった。
25	(社福) 路女館	ういざ守口	100,000	100,000	25	「メンバー旅行」の実施 令和元年9月27日～28日 昨年度から就労系のメンバーとは別れて、今年度もゆつくりのペースで旅行を楽しむことができました。ホテルでの、宴会も多少のハプニングがありながらも、出し物をやりきりました。これも、日々の日常の積み重ねがあったからこそ、一泊という大きな行事を楽しめたのだと思います。今後とも日頃の慰労とメンバー同士の懇親を目的に続けていきたいと思えます。
26	(社福) 大阪府障害者 福祉事業団	子ども発達支援センター Sun	100,000	50,000	1	「四季島グループによるホームページ作品展示コーナー応募のための取材活動」の実施 令和元年12月～令和2年3月 自分たちのこだわりを最大限に活かしたアルバムとサポート協会ホームページ作品展示コーナー応募のための作品を完成することができました。サポート協会の助成金をうけることで当事者の先輩でプロとして活躍されている写真家を講師として招くことができました。子ども達にとっては写真家の専門的な視点からカメラ撮影の技術を学ぶことそして趣味を仕事につなげ自分らしく生きることとはどういうことかを考える機会となりました。
27	(NPO) 枚方市障害者 事業協会	わお	50,000	50,000	1	「一泊二日宿泊訓練」の実施 令和元年10月7日～8日 利用者の生活力向上に向けて公共機関を利用することともに、利用者同士の親睦を深めること、事業所では見ることのできない利用者の姿（着替え、入浴、整容など）を職員が知る事によって今後の支援に役立てることを目的に実施し、普段事業所に来て見せている姿だけが利用者さんの姿だと思っていたが、改めていろいろな姿を見ることで、今までよくわからなかった好きなテレビや、入浴時や起床時のこだわりなどは、今後の支援の参考にしていきたい。
28	(NPO) ノーマライゼーション 高槻	コルメナ	50,000	50,000	4	「生活介護事業所『コルメナ』の日帰り旅行の実施 令和元年11月1日 いつもの慣れた空間を飛び出し社会性を身につけ、普段できない体験をするために実施。レストランのランチバイキングでは一般客のいるなかでマナーを守りつつ食事を楽しむ、土産物屋では家族の希望のものや自分の好きなものを探して買い物をするすることができました。水上バスではほとんどの利用者が船に乗り込み、席に落ち着いて景色を楽しむことができました。今後いろいろな体験が、日常生活の応用や自信につながるよう機会を設けていく。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和元年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法人名	支部名	令和元年度		加入者数	令和元年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
29	(社福) 育成福祉社会	総合支援センターさくら	50,000	50,000	3	「障がいのある人たちの地域における役割づくりと就労支援」の実施 令和元年10月～令和2年3月 施設のアロマ資格を有するスタッフが講師となり、利用者にアロマ技術を身につけて頂く研修等を実施。福祉施設などを訪問し利用者や介護者に対してストレス緩和を目的にアロマサマービスの提供を行い、地域における役割づくりと共に工賃の向上、理美容業界への就労促進を目的に実施した。新型コロナウイルスの影響で1月以降の予定が中止・延期となっているが、継続的に取り組みを実施していきたい。理美容業界への就労に繋げていきたい。
30	(社福) 水仙福祉社会	淡路こども園	100,000	0	13	新型コロナウイルス感染症予防のため、事業中止。助成辞退。

理念

知的障がいのある方が「輝いて生きること」を支援します

知的障がい児者・自閉症児者、家族の暮らしを、
各種の事業と補償制度で支えます

大阪知的障害児者生活サポート協会は、
全国知的障害児者生活サポート協会と連
携し、助け合うという互助の精神を柱に、
知的障がい児者・自閉症児者の皆さまを
かけがえのない存在として捉え、より豊
かな生活が送れるよう支援しています。



事業

支援に係る事業

その人らしく「生きること」を支援

- 日常生活支援
- 就労生活支援
- 権利擁護
- スポーツ振興 等

支部活動等助成事業

支部・地区別ブロック活動の促進

大阪生活サポート協会に入会する支部（施設・事業所等）及び
地区別ブロックが大阪生活サポート協会の目的に適った事業を
実施する場合に助成しています。

令和元年度は 29 支部へ助成しました。

表現活動支援事業

支部を利用されている方、地域で暮らしておられる方が絵画、
手芸、粘土などの作品を発表する機会をつくっています。

支援者のサポート

人材育成

- 調査研究
- 研修会の開催
- その他

補償制度

AIG 普通傷害保険

大阪生活サポート協会にご入会いただくと補償制度をご利用い
ただけます。

■生活サポート総合補償制度

引受保険会社：AIG 損害保険株式会社

保険代理店：ジェイアイシーウエスト株式会社